2023.11
NOVEMBER
No.20

高知大学医学部附属病院広報誌
隔月刊［おらんくの大学病院］

RANK

＼Positive & High energy／
佐竹悠良というヒト。

高知と「縁」ができたからには、
絶対に地域の支えになる！

腫瘍内科学講座 教授
佐竹　悠良

RANK 2023.11 NOBEMBER No.20
高知大学医学部附属病院広報誌
隔月刊［おらんくの大学病院］

［発行日］2023年11月20日　［発行］高知大学医学部附属病院 広報係　〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮　Tel.088-880-2723

高知大学医学部附属病院

http://www.kochi-u.ac.jp/kms/hsptl/index.html

＼広報担当者のつぶやき／

佐竹先生がサーフィンを嗜まれるという噂をお聞きし、思い切って『海で表紙の写真を撮影させて下さい！』とお願いしてみました。病院広報誌の写真撮影で“野外ロケ”をお願いしたことはなく、ダメ元のお願いでしたが『早朝なら良いですよ！』とご快諾をいただきました。

青空と海と先生の組み合わせにカメラマンも血が騒いだようで、撮影可能な時間ギリギリまで色々なカットを撮影していました。最終的に表紙に選ばれたベストショットに海が写っておらず、『野外ロケじゃなくても良かったんじゃないか』といった笑い話もありましたが、海辺ならではの空気感があって爽やかな表紙に仕上がったと思います。

Positive & High energy

今日は佐竹悠良教授をじっくりと語ってみようか。

これまで難治性がんなどに対し医師不足などから充分な医療を提供できなかった高知県において、
高知大学医学部附属病院に腫瘍内科が誕生したのは2021年11月。
関西医科大学附属病院がんセンターから本学「腫瘍内科学講座」初代教授として着任した
佐竹悠良教授は、若手医師育成に軸足を据えた教育を一つの羅針盤としている。
ここでは、そんな教授に「付いていく!」と言ってはばからない皆さんに、
教授との充実した日々をざっくばらんに語ってもらった。

「佐竹先生の患者さんに接する態度は私にとって医師の理想像なんです」

佐藤／私は単純に佐竹先生に憧れて県外から高知に来ました。

佐竹先生は、患者さんと真剣に向き合いながら、治療法を淡々と穏やかに説明します。中には説明をしても「もう先生に任せますから」といった患者さんもおられ、時には「私は佐竹先生に人生を賭けてるんで、どうぞ先生の好きにしてくれ!」なんて言う患者さんもおられますが、先生は動じることなく「分かりました、私ならⒶかⒷにします。」と、患者さんやご家族の思いを受け止めた上で、それぞれの治療のメリットとデメリットを説明していきます。

佐竹先生の患者さんに接する態度は私にとって医師の理想像なんです。

坂本／佐竹先生の元には最後の希望を託して来られる患者さんも多く、それに対し患者さんに寄り添った治療の選択肢を惜しみなく説明した上で世界レベルの先端治療を実施していて、それを間近に見ることですごく影響を受けますし、この環境で学べることも幸運に感じます。

佐藤／〝抗がん剤治療の患者さんを可能な限り外来で対応する〟というのも佐竹先生の特徴だと思います。医師の立場からすれば、入院してもらった方が、治療の経過も見守れるし安心なんです。でも、患者さんの体力は自宅から通院できることで、患者さん自身の生活も大きく変わり、家族との時間ができ、体力も温存できだしたと。

また〝がん〟と聞くと患者さん、家族とも当然暗くなりがちですが、その場の空気も考えながらいつでも冷静に状況や治療法を伝えていくスタイルは、私たちの憧れでもあるんです。

小嶋／看護師さん方から聞いたのは、佐竹先生が当院に来られるまでは一部の難治性がん患者さんは自宅を離れ県外まで治療に行かなければならず、(自宅に帰れず)治療先の病院で亡くなってしまうケースがとても多かったけれど、来られてから〝来るらしいぞ」なんて噂も聞こえてきて好奇心たっぷりに先生の外来実習に参加させてもらったのですが、診療の様子を見ていて腫瘍内科にどんどん魅かれていったんです。

病院という環境に慣れている学生でも、気になったことを医師に尋ねるのは少し気を遣います。当然、患者さんの立場であればなおのことだと思うのですが、そういったことを汲み取って、折にふれ患者さんに「解らないところ、気になっているところ、不安なところはないですか」と確認されるのも印象的でした。また、個々の患者さんに合わせて治療体制を整えていくところに、〝ああ、医師の姿ってこれなんだ!〟と再認識させてもらったんです。

坂本／佐竹先生はよく僕たちに「何でも質問していいよ」と声をかけてくださるんですが、先生の「何でも質問していいよ」は本当に何でも質問していいんです(笑)「悩む暇があったら聞いた方が早いから」と言われていて、僕の勉強不足で本当に基本的なことを質問してしまうこともあるんですが、いつも丁寧に穏やかに説明してくださいます。よく先生からお声掛けいただくのが「君たちの要望にできる限り応えていきたいから何でも言って欲しい、僕は言ってくれないと動けないから(笑)」と。そう言ってもらえるのが本当に有難いです。

佐藤／あと、佐竹先生は本当に若手が成長することを応援してくれます。常々「僕の古巣で勉強して来い」なんて言われていて、またそれも嬉しいんです(笑)

難波／将来的に、症例数が多いハイボリュームセンター等に研修に行く道筋が見えていることは、我々学生にとっても魅力的に映ります。

小嶋／佐竹先生は職場環境だけでなく、個人の生活環境やメンタル面まで心配してくれ、いつも「自分に関わっている人全員がハッピーになって欲しい」と言っておられて、お酒の席になると「皆さん、自分の人生ですからまず家庭を大事にしてくださいね。不安なことがあれば何でも僕に相談してくださいね」と、私たちを本気で気遣ってくれます。

「最高です!」は、私たちにとっても最高のエールに!

佐藤／実は先生にはお茶目なエピソードもあって(笑)。昨年12月にシンガポールの学会で発表する機会をいただいた際、僕はあまりの緊張に委縮していたんだけど、先生がいきなり「おい、プールでひと泳ぎしないか」って。「いや僕、海パン持ってないすよ。先生もでしょう?」と聞くと、「ここにあるよ!」って、僕の目の前でスーツのズボンを下ろした瞬間、下にしっかり海パン履いているんです。こういった人間味(笑)のあるところにすっかりやられてしまいます。

小嶋／先生に感謝することはまだまだありまして(笑)。私たちが「先生○○してきました!」と報告すると、口癖のように「最高です!」と言ってくれますが、その言葉はまさに〝良くやった!〟のエールに聞こえ、佐竹先生そのものだと思います。

この「最高です!」は、私たちを励ましてくれる最高の言葉です。

「君たちの要望をできる限り言ってください、必ず応えていきたいから」

難波／僕は学生ですが、もともと他の科に進む予定をしてたんです。先生の着任当時「なんかすごい先生が、

医学科6年生
難波 伶至さん
(なんば れいじ)

医療人育成支援センター
初期研修医
坂本 秀男医師
(さかもと ひでお)

腫瘍内科 医員
小嶋 咲絵医師
(おじま さきえ)

腫瘍内科 医員
佐藤 拓弥医師
(さとう たくや)

腫瘍内科のスペシャルな魅力、知って欲しい！

〜おもしろさ〜

医員
佐藤 拓弥

腫瘍内科との出会い

学生時代がんに対する新規治療についてレポートを課されたことで、東京大学脳神経外科学教室で遺伝子組み換えヘルペスウイルスG47Δを用いた脳腫瘍に対する治療開発が進行中ということがわかり、近未来にがんウイルス療法が実用化されることを切望していました。臨床試験で驚異的な治療効果が示され、2021年6月にはテセルパツレブとして保険承認された経緯から、ウイルス療法をはじめとするがん治療に携わりたいと感じ、腫瘍内科に興味を持つこととなりました。

腫瘍内科という領域の魅力

最新のがん治療とともに、臨床試験を実施することでガイドラインを作る側になれるのは大きな魅力です。現在、がん免疫療法、CAR-T細胞療法、抗体薬物複合体（ADC）などの治療法が次々に実用化されてきています。飽き性の私には、ガイドライン改定を含め概念や治療法が急速にアップデートされていくことが頼もしく、最新治療の開発側になれることを非常に喜ばしいと思っています。

夢・野望

がん診療の均てん化は急務であり、東西に長い高知県では医療資源の限られる郡部も広く、首都圏と同様な最新のがん診療が叶わない患者さんが多くいます。難治性がんや稀少がんに対する診療、最新のがんゲノム医療を提供するため国内外の先端施設で経験を積み、高知県のがん診療に寄与できる医師になりたいと望みます。

また、がん患者さんの多くの悩みに対し、自宅で安心して過ごしていただくための環境調整や訪問診療の在り方も重要で、がんだけを診るのではなく、がん患者さんを"一人のひと"として診られるような腫瘍内科医を目指したいと思っています。

医学部医学科6年生
難波 伶至

腫瘍内科との出会い

今年3月の実習経験で、その存在を知りました。高知大学の腫瘍内科だったからこそ興味が沸き、将来の進路にしようと決めました。

当時研修医だった佐藤先生や坂本先生も同時期に研修されており、諸先生が楽しそうに、熱心にがん治療について語ってくださったのが印象的でした。

腫瘍内科という領域の魅力

がんになることの身体的、精神的、社会的影響は非常に大きく、患者さんは治療を受けながら日常生活も営んでいかなければならず、そうした人生の重要な局面で、医師として生活面も含めた包括的なサポートができる点でもやりがいを感じます。

また、がん薬物治療が急速に進歩している点にも腫瘍内科の魅力を感じていて、経験豊富な佐竹先生のもとで勉強させていただきながら、がん治療の一翼を私自身も担えるのではないかと、その期待に胸を膨らませています。

夢・野望

近年「AYA（思春期と若年成人）世代のがん」が重要なトピックになっています。さまざまな診療科での臨床実習を通じて、高校以降や就職してからの病気療養におけるサポート体制が必ずしも確立されていないと感じました。社会的なシステムも含めて学校や行政とも協力し合い、特にAYA世代の患者さんのサポートをしていければと考えています。

また、東西に長い高知県は通院には時間がかかるため、県内で腫瘍内科医として働くにあたっては、居住地域近くで受診できる体制づくりに貢献していきたいと考えています。

医員
小嶋 咲絵

腫瘍内科との出会い

研修医2年目に佐竹先生の大腸がんの化学療法に関するWeb講演会を拝聴し、想像とは違い実際の化学療法は副作用の少ない、外来中心の治療と知りとても驚きました。腫瘍内科外来では、元気に通いながら化学療法による治療を受けるがん患者さんの多さも実感できました。最適の医療を受けていただくための検査や治療をはじめ、地域の病院とも連携を取り合っている先生方やメディカルスタッフの方たちの力になりたいと思ったことが、腫瘍内科専攻のきっかけとなりました。

腫瘍内科という領域の魅力

がん患者さんの治療中に起こるさまざまな症状や病気に対応するため、一般内科や緩和医療の側面もあることから、医師として幅広い経験ができます。

また患者さんと直に接するため患者さんとの距離が近くなり、治療以外の日常会話が楽しめることも魅力です。

夢・野望

患者さんから話しかけやすい、相談しやすいと思ってもらえる、いつも優しくて穏やかな医師になるのが理想です。高知県のがん治療をより良くするため、腫瘍内科の医師やメディカルスタッフの方々を支えられる、縁の下の力持ち的な存在となれるよう精一杯頑張ります。

初期臨床研修医
坂本 秀男

腫瘍内科との出会い

初期研修を続けていく中で、外科系よりも内科系を専攻したいと考えるようになりました。当時研修医の先輩だった佐藤拓弥先生（現腫瘍内科医員）に腫瘍内科を勧められ、勉強会に参加する中、次第に興味が増したため実際に1ヶ月ローテーションで腫瘍内科を学ばせていただいた際に、後期研修先の候補として腫瘍内科を考えるようになりました。

腫瘍内科という領域の魅力

今や珍しい病気でなくなりつつある「がん」に対して、薬物治療を通して完治および予後延長に寄与できる素晴らしさ。また、現時点で標準的な治療が確立していないようなまれな腫瘍に対して、治療に取り組む「やりがい」があることです。

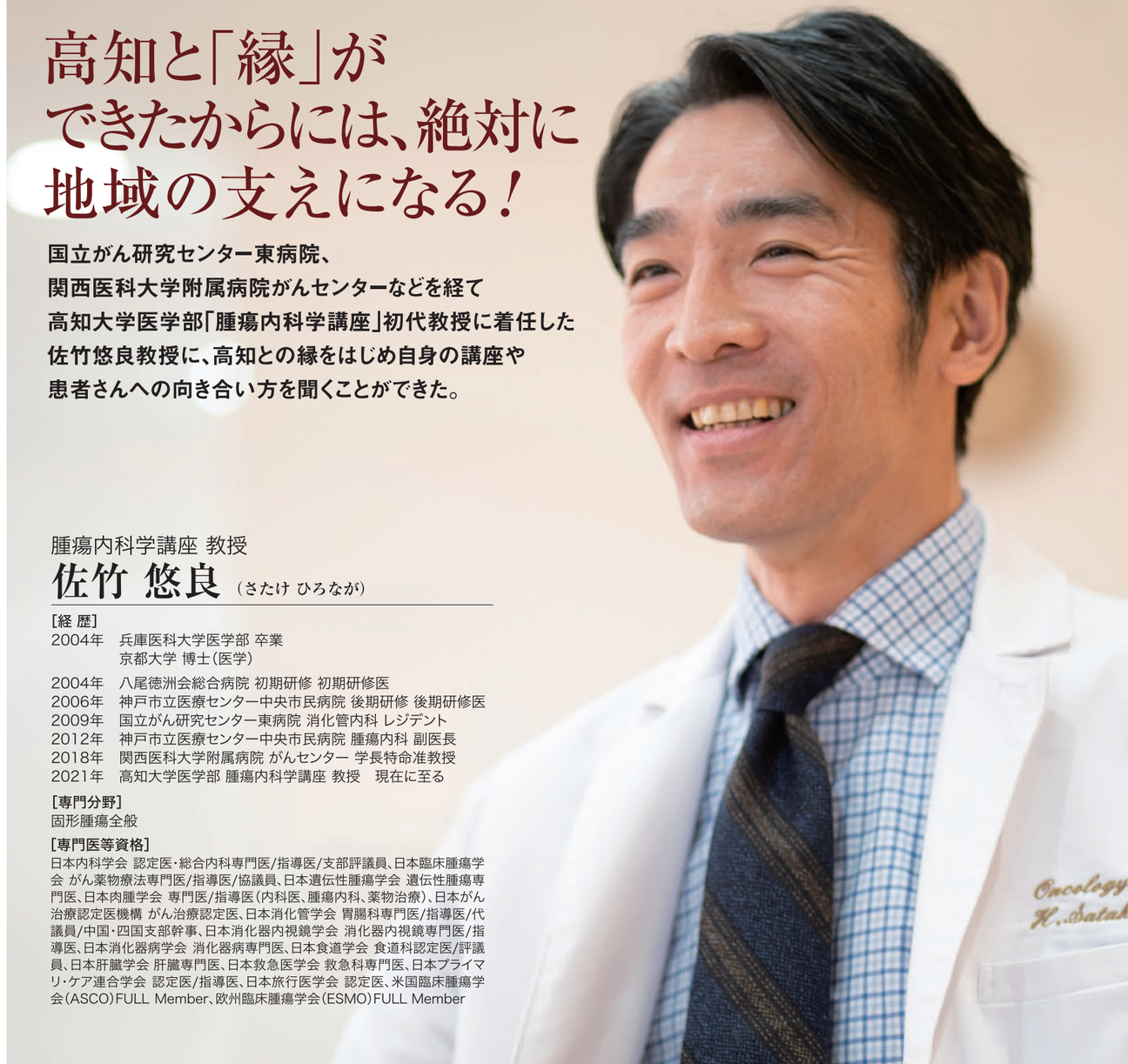
夢・野望

まず第一に内科医としてのスキルを磨いていきたい。そして、腫瘍内科学全般を学んでいく中で、腫瘍の中でもより自分の得意とする分野を見つけたいと思っています。

そして、最終的にその分野の第一線で活躍できるような医師を目指したいですね。

高知と「縁」ができたからには、絶対に地域の支えになる！

国立がん研究センター東病院、関西医科大学附属病院がんセンターなどを経て高知大学医学部「腫瘍内科学講座」初代教授に着任した佐竹悠良教授に、高知との縁をはじめ自身の講座や患者さんへの向き合い方を聞くことができた。



腫瘍内科学講座 教授

佐竹 悠良（さたけ ひろなが）

[経 歴]

2004年　兵庫医科大学医学部 卒業
　　京都大学 博士（医学）
2004年　八尾徳洲会総合病院 初期研修 初期研修医
2006年　神戸市立医療センター中央市民病院 後期研修 後期研修医
2009年　国立がん研究センター東病院 消化管内科 レジデント
2012年　神戸市立医療センター中央市民病院 腫瘍内科 副医長
2018年　関西医科大学附属病院 がんセンター 学長特命准教授
2021年　高知大学医学部 腫瘍内科学講座 教授　現在に至る

[専門分野]

固形腫瘍全般

[専門医等資格]

日本内科学会 認定医・総合内科専門医/指導医/支部評議員、日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医/指導医/協議員、日本遺伝性腫瘍学会 遺伝性腫瘍専門医、日本肉腫学会 専門医/指導医（内科医、腫瘍内科、薬物治療）、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、日本消化管学会 胃腸科専門医/指導医/代議員/中国・四国支部幹事、日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医/指導医、日本消化器病学会 消化器病専門医、日本食道学会 食道科認定医/評議員、日本肝臓学会 肝臓専門医、日本救急医学会 救急科専門医、日本プライマリ・ケア連合学会 認定医/指導医、日本旅行医学会 認定医、米国臨床腫瘍学会（ASCO）FULL Member、欧州臨床腫瘍学会（ESMO）FULL Member

―一昨年11月から本学に着任され、丁度2年が経過されましが、高知の印象や学生さんについての感想を聞かせてください。

高知には縁もゆかりもなかったのですが（笑）、何度か講演会に呼んでいただきましたし、神戸市立医療センター中央市民病院でお世話になった高知県出身の辻晃仁先生（香川大学医学部臨床腫瘍学講座教授）と以前から学会等でお世話になっていた小林道也先生（高知大学医学部医療学（医療管理学）講座教授）に、高知で講座を立ち上げるにあたり、声掛けいただいたのです。

実際自分のような若僧がこういったポジションに就いてよいのかとも思いましたが、これも縁というものかと。コロナのまっ最中でしたから教授選考もWebで行いましたし、高知大学の学舎も見たこともなく、住まいを決める際にもモニター越しにWeb内覧とか（笑）。高知市街だって講演会で訪れた2回きりで、その際ご飯がおいしかったくらいです（笑）。

―腫瘍内科学講座の初代教授に就任当初、まず何をやらねばと感じましたか。

実は前任地の関西医科大学附属病院がんセンターも僕が立ち上げたものでして、高知大の腫瘍内科学講座はゼロスタートということで、関西医大の経験から"自分が信念を持ってすればきっと付いてきてくれる！"と信じていました。ともあれまずは人集め、研究仲間集めからスタートしたんです。

―先に、先生を囲む若手の方々から「佐竹先生を語る」という名目で、先生に対する率直な思いをいただいたところ、皆さん一様に先生のエネルギッシュでポジティブなところをリスペクトされていますが、その理由は何だと思われますか。

へぇ、そうなんですね（笑）。やっぱりせっかく高知に来たからには、高知のがん診療をきちっと支えられる体制や組織を県下全域で作っていきたいと思っていて。喜ばしいことに、そこに賛同したり興味を持ってくれる若手がどんどん増えていまして、その嬉しさが表情や態度に出ているのかな。皆さんが将来必ず活躍できる環境を僕自身で作っておいてやりたいと常々思っているんです。これは今まで自分がやってきた事の継続でもあるし、これから発信すべき事もたくさんあるので、そのあたりがエネルギーの源になっているのでしょうね。

―高知県という括りの中で、腫瘍内科学講座をどのように育てて行きたいですか。

少なくとも、高知県の腫瘍で困っていたり、悩まれている方々をきちんと受け止められる施設に仕上げていきたいと思っています。

それはたとえば、高齢化に加えて過疎化、離婚率が高いせいか独居の高齢者も多く、また東西に長い土地柄、通院するにも電車、バス、車を利用しても1、2時間は当たり前のケースもあるんです。

コロナも落ち着きましたしエリアごとの状況を肌身をもって知っておく必要があり、地域の病院訪問などに行かせてもらって、先生方とコミュニケーションを取りながら患者さんを困らすことのない診療体制づくりを進めています。

高知県に向けたがん医療対策が、ひいては日本全国に還元できるようにするため、その一つひとつを先んじて行い、適例になっていくことが必要だと感じています。

―たとえば手の施しようのない患者さんやその状況に対峙した際など、先生が心がけていることはありますか。

状況を激的に変えることが困難な方には、その状況下でご家族やご本人の生活に病気の負担を和らげるアプローチを心がけています。がんと言うと、どうしても悪いイメージが定着していて、病気のすぐ隣には"死"というネガティブなものがあります。私ができることとして、患者さんが必ず前向きな気持ちになれるような声掛けや提案は、どんなにしんどい状況である方にもさせてもらっています。どんな時でもポジティブでいることは、自分だけでなく相手の気持ちも変えてくれると思います。

―高知大学医学部の学生たちの印象や研究への取り組み方ついて、率直な感想を聞かせてください。

それはもう"ピュア"です。何に対しても真面目に取組んでくれます。思いの外、腫瘍内科の領域に興味を示してくれる若い先生や学生さんが多いことをひしひしと感じていますし、それは嬉しい驚きでもありました。

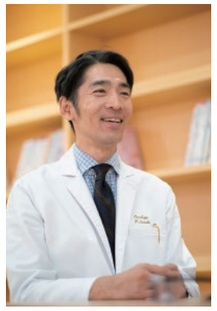
薬物療法を専門にしてがん患者さんを診ていくという診療科に対して、日本では教科の概念そのものが新しいゆえにまだまだ浸透していなく、知らない方もたくさんいます。まずは講義を聞いていただき、こういう診療科でこういうアプローチがあることを納得してもらうことを目標にしています。

―学生さんに必ず伝えていきたいところはどんなことでしょうか。

はい、それはもう腫瘍内科における薬物療法の面白味を正しく伝えることですね。僕自身が救急をやっていたので分かるんですが、外科手術ならドラマで取り上げられたりと、ビジュアル的にも分かりやすいでしょう。それに比べて腫瘍内科の場合、患者さんと向かい合い体調を確認したり、採血結果や画像評価の中から病状の把握をして、先を見据えた診療方針を決定したり。さらに抗がん剤治療には副作用が付きものなので、患者さんの状態を少しでも改善でき患者さんがポジティブな気持ちになれるようなＱＯＬを意識した治療法を提供するべきだと。そのあたりの深～い面白味をどう学生たちに伝えるかが、けっこう難しかったりするんです。でもまたそれをあれこれ考えるのも楽しいんですけれど（笑）。

―病院訪問に力を入れていると聞いていますが、近隣病院の先生方へのメッセージ等をお願いします。

がん診療のことでお困り事があれば、遠慮なく連絡、相談いただきたいです。高知県のがん治療の最後の砦とまでは言いませんが、地域の先生方のお役に立てる体制を少しでも早く構築させ、絶対に高知のがん治療の支えになるべく頑張っていきますので、よろしくお願いします！



高知の海で大好きなサーフィンもしたいのですが、今のところ仕事一本の状況に満足しています。タイミングが合えば、ぜひ！

腫瘍内科実施　臨床研究・企業治験

試験名（略称）	試験	対象がん種
MONSTAR-SCREEN-2	進行固形悪性腫瘍患者に対するAIマルチオミックスを活用したバイオマーカー開発の多施設共同研究	固形がん
BRANCHstudy	固形がん患者及び血縁者における生殖細胞系列遺伝子変異同定の有用性を評価する観察研究	固形がん
Need	「分散型癌診断及び治療情報プラットフォーム」のパイロットサービス	固形がん
AMED研究	患者由来がん幹細胞培養を基盤とした革新的個別化医療開発	消化器がん
スフェロイド	生検・内視鏡検体を用いた患者由来スフェロイド培養モデルの樹立に関する研究	消化器がん
POME	進行・再発食道がん患者の薬物治療体系と予後に関する観察研究調査～日本におけるリアルワールドと実地臨床の分析～POME研究	食道がん
WJOG15822G	切除不能進行再発胃腺癌もしくは食道胃接合部腺癌に対する3次治療以降のTrifluridine/tipiracil（FTD/TPI）+Ramucirumab（RAM）併用療法とFTD/TPI単剤療法のランダム化第II相比較試験	胃がん
NIVO-RETURNS	切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブ再投与における有効性と安全性の前向き観察研究	胃がん
NIVO-RETURNS付随研究	「切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブ再投与における有効性と安全性の前向き観察研究」に付随するトランスレーショナル研究	胃がん
WJOG16322G	高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対するmFOLFOX6+ニボルマブ療法の単群第II相試験	胃がん
WJOG16322G付随研究	消化管悪性腫瘍検出を目的とした新規高感度遊離DNAアッセイの有用性を探索する前向き観察研究	胃がん
OGSG1701	高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する周術期Capecitabine+Oxaliplatin（CapeOx）療法の第II相試験OGSG170	胃がん
JACCRO GC-11 (FirSTAR)	術後補助化学療法中または終了後早期に再発した胃癌に対するCapeOX+ニボルマブ療法の第II相試験JACCRO GC-11（FirSTAR試験）	胃がん
ENSEMBLE	局所進行直腸癌に対する術前治療としての短期放射線療法とCAPOX及び短期放射線療法とCAPOXIRIの多施設共同ランダム化第III相試験	大腸がん
ENSEMBLE-2	局所進行直腸癌を対象とした術前化学放射線療法ならびに術前化学療法の有効性・安全性を検討する臨床第II相試験	大腸がん
CONDUCTOR	がん患者の臨床検体を用いた遺伝子プロファイリング（全ゲノム解析）と臨床的意義に関する研究	大腸がん
GALAXY	根治的外科治療可能の結腸・直腸癌を対象としたレジストリ研究	大腸がん
VEGA	血液循環腫瘍DNA陰性の高リスクStageII及び低リスクStageIII結腸がん治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのCAPOX療法と手術単独を比較するランダム化第III相比較試験	大腸がん
LEMON	大腸癌に対するオキサリプラチン併用化学療法後に残存する末梢神経障害に対するプラセボを対照としたL.E.Mの有効性および用量探索的多施設共同並行群間二重盲検Randomized試験：LEMONtrial	大腸がん
TRESBIEN（OGSG2101）	OGSG2101：StageII/III大腸癌根治切除後の補助化学療法中または治療後に早期再発したRAS野生型かつBRAFV600E変異再発大腸癌患者に対するエンコラフェニブ+ビニメチニブ+セツキシマブ療法の有効性と安全性を探索する第II相試験（TRESBIEN試験）	大腸がん
PRABITAS	切除不能大腸癌に対するトリフルリジン・チピラシル+ベバシズマブの従来法と隔週法の実用的ランダム化第III相試験	大腸がん
OSERO Study	切除不能進行再発大腸癌における後方治療の前向き観察研究	大腸がん
ART-123	進行・再発大腸癌患者を対象にロイコボリン／5-フルオロウラシル／オキサリプラチン及びベバシズマブと併用したときのART-123の安全性及び忍容性を評価する二重盲検、プラセボ対照、ランダム化、用量漸増、多施設共同第1相試験	大腸がん
KHBO2201 YOTSUBA	切除不能または再発胆道癌を対象としたゲムシタビン+シスプラチン+S-1（GCS）療法とゲムシタビン+シスプラチン+免疫チェックポイント阻害薬（GC+免疫チェックポイント阻害薬）療法のランダム化比較第 III 相試験（KHBO-2201））	胆道がん